

高校生へ 私が選んだ 1冊の本

最新・月の科学

渡部 潤一：編著
(NHK ブックス)

「月で兎が餅をついているよ。」

幼い頃、誰もがこの言葉を言ったり、聞いたりしたことがあるでしょう。私もそのひとりです。でも、なぜそのような模様ができたのか、幼いころから不思議に思っていました。本書を読むことで、その疑問が少し解決しました。月の表面に見えるウサギの影は、月の「海」と呼ばれている部分だそうです。月にとっての「海」とは、水ではなくマグマがあった場所のことです。その痕跡が影となり、地球からみる私たちには、ウサギのような形に見えるのです。

本書は、現在月について分かっていることが詳しく書いてあります。鉱物や月の内部のことなどは、私には少し難しく、あまりよく分かりませんでした。しかし、面白いと思ったことがいくつもありました。たとえば、月と地球はその誕生の時から深く関わっており、2つの天体の歴史は密接に関係していること、月の裏側の模様は、表側と大きく違って「海」がほとんどないことなどです。

本書の中で、私が特に興味を持ったのは、日本が打ち上げた月周回衛星「かぐや」についてです。「かぐや」には、15種類もの観測ミッションがあります。私が特に楽しみなのは、月のハイビジョン映像です。地球からは見られない詳しい姿をテレビでぜひ見てみたいです。それ以外にも、月の重力の分布を調べたり、月の磁場を観測したりと、

月について詳しく調べるといことです。

この本を読んだ後で、NHK スペシャルの『「かぐや」の最新報告』というのを見ました。本書の中で説明が期待されていた発見をしたそうです。月の裏側には溶岩が少なく、表側に多いということはこれまでも分かっていました。「かぐや」は、その子衛星「おきな」を使って、表側には重力の大きいところが多く、裏側には少ないことを発見のです。これは、「昔、月は今よりも地球の近くにあり、強く地球の重力に引っぱられていたため卵型だった。その後月日が流れ、月は地球から離れていき現在のような球型になった。そのため地球側の表だけに重力の強い重いものが集まった」という説の1つの証拠になるそうです。

また、私の学校には口径50cmの望遠鏡があります。この望遠鏡で月を見たところ、月が放つ光がとてもまぶしくて驚きました。クレーターを見たら、その周りに放射状の白い線がありました。これが隕石の落下でできた跡かと思い、自分の目で見る事ができてとても感動しました。月に独特の存在感を感じました。

本書は、宇宙の過去と未来についての可能性が詰まっており、未知の世界という宇宙へのイメージをより具体的にしてくれました。宇宙は夢や希望、新たな発見といった私たちへの問いかけに溢れています。本書は、月という身近な天体を通して、広大な宇宙へ目を向ける大きなきっかけをあたえてくれました。今後、月周回衛星「かぐや」の調査で月のことが詳しく分かり、月と地球とのつながりがより解明されることが楽しみです。

(岡崎城西高等学校 1年 岩田 千明)

通巻第65号
2009年2月20日 印刷
2009年2月25日 発行

© 編集・発行

実教出版株式会社

代表者 島根正幸

定価 210円(本体200円)
発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5
TEL. 03-3238-7777
<http://www.jikkyo.co.jp/>